



# Close Up YNU 2016

大学との「絆」をより深める、コミュニティマガジン



## 新学部「都市科学部(仮称)」新設 平成29年4月開設予定 学部新設は、1967年の経営学部以来50年ぶり

**横** 浜国立大学は理工学分野、教員養成分野、人文社会科学分野の教育組織が1つのキャンパスにある立地を活かし、文系と理系が協力する文理融合の教育研究に積極的に取り組んできました。

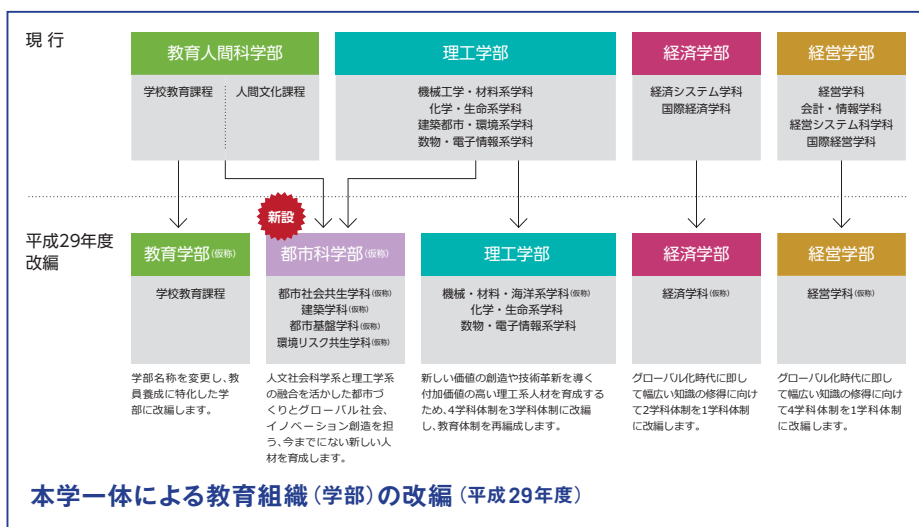
そこで、21世紀のグローバル新時代に求められる、広い専門性を持った実践的人材を育成する取り組みのひとつとして、平成29年4月に都市科学部(仮称)を新設します。都市科学部(仮称)では、文理融合を活かした都市づくりとグローバル社会、イノベーション創造を担う、今までにない人材の育成を目指します。

同時に、教育人間科学部は人間文化課程を廃止し、教員養成に特化した教育学部(仮称)に改編し、地域の教員養成の中核としての役割を担います。

また、理工学部は4学科体制から3学

科体制に改編し、多様な業界で新しい価値の創造や技術革新を導く付加価値の高い理工系人材の育成を目指していきます。さらには、経済学部と経営学部もより

幅広い知識の修得ができるよう、それぞれを1学科体制に改編します。本学は、今後、学部教育と大学院教育に発展的・積極的に取り組んでいきます。



上記内容は、現在文部科学省への申請中のため、組織名称・内容等は構想中のものであり、変更する場合があります。また改編後の組織は平成29年4月入学生より適用されます。

### 学長からのメッセージ

長谷部 勇一



横浜国立大学は人文科学系、社会科学系、理工学系の学部・大学院が一つのキャンパスにあり、教職員、学生の交流が盛んという強みがあります。そして、本学が立地する横浜は、イノベーションの最先端であり、グローバル企業が集積する国際都市としてローカルとグローバルが接する魅力ある地域です。

平成29年4月開設予定の都市科学部(仮称)は、横浜・神奈川地域をフィールドとし、人文社会科学系と理工学系の融合を活かした都市づくりのあり方を解明し、グローバル社会とイノベーション創造を担う新しい人材育成を目指すという点で、本学の象徴であると考えています。本学は、21世紀という時代を踏まえ、3層のイノベーション論を独自に提唱しています。

まず、層1:「科学技術そのもののイノベーション」が

行われます。その新技術が実際に人々に使用されるためには、経済学・経営学などを用いて市場調査を行う社会科学的な発想も必要であり、それが層2:「科学技術を社会実装するための制度や社会システムのイノベーション」です。さらに、人々が将来どのような価値観で商品やサービスを欲するのかを洞察するという人文科学的知見も重要であり、それが、層3:「社会を支える人間の価値観やパラダイムのイノベーション」です。

文理融合の優位性を活かし、このような3層のイノベーションを推進できることが、本学の強みであると自負しています。

今後、都市科学部(仮称)を中心に各学部や大学院において、基盤的研究とともに文理融合的研究が進み、それらを活かした教育が活発になることを期待しています。

- 層1: 科学技術そのもののイノベーション
  - 層2: 科学技術を社会実装するための制度や社会システムのイノベーション
  - 層3: 社会を支える人間の価値観やパラダイムのイノベーション
- 本学はイノベーションを3層で捉え、イノベティブ人材の育成を目指しています。

## リスク共生社会創造センターを設置

## 安全安心の実現と活力のある社会の創造を目指す拠点

横

浜国立大学では、2015年10月にリスク共生社会創造センターを設立しました。

これは、リスク共生社会という本学が目指す21世紀の新たな社会の実現と、研究に止まらず必要な機能を社会に実装することを目的として、共同研究推進センターと安心・安全の科学研究教育センター

を発展的に解消したものです。

同年10月13日には、設立記念として看板除幕式を行いました。関係者一同が集まる中、長谷部学長から新センターへの期待を込めた言葉が述べられ、盛大な拍手が送られました。

今回設立した本センターでは、社会としての「リスクの共生のあり方」「最適



な調和ある受容のあり方」を模索しながら安全安心の実現と活力のある社会の創造を目指していきます。

## 横浜国立大学・神奈川大学・関東学院大学におけるFD活動の連携に関する包括協定を締結

本

学高大接続・全学教育推進センターは、神奈川大学教育支援センター、関東学院大学高等教育研究・開発センターとFD（教育改善）活動に関する包括協定を締結しました。本包括協定は、各大学におけるFD活動について相互に協力、連携することで、教育・研究の質及び学生の学びの質の向上に資することを目的として締結したものです。2014

年度から各大学センター教職員による交流がスタートしFD活動に関する懇談会、活動連絡会を共同開催しています。

包括協定の調印式は2015年12月3日に本学で行われ、同日には、「第1回3大学合同FD懇談会」も開催されました。「学生の学びを深める教育へ」を全体テーマとして、「キャリア教育におけるアクティブ・ラーニング」等についてディスカッションが



行われました。本学は、本包括協定の締結を機にFD活動をさらに活性化させ、学生の学びの質の向上に取り組んでまいります。

## 社会実証研究のための実験車MIRAI納品

現

在、リスク共生社会創造センターでは、「エネルギーキャリアの安全性評価研究」プロジェクトを推進しています。本プロジェクトは、内閣府の戦略的イノベーション創造プログラム(SIP)の「エネルギーキャリア」に採択された課題です。本プロジェクトに、本学の強みである「水素エネルギー」で各研究機

関と連携するために、2016年1月6日に社会実証研究のための実験車MIRAIを導入・運用しました。

MIRAIは、トヨタ自動車の燃料電池自動車で、首都圏にある大学では初めての導入となります。水素で実現するクリーンエネルギー社会にむけての横浜国立大学の研究に、是非ご注目ください。



左) Jouko Niinimäki学長 右)長谷部学長

## オウル大学(フィンランド)と国際ブランチ設置に関する協定を締結

2

015年11月17日、オウル大学(フィンランド)において、同大学との国際ブランチ設置に関する協定を締結しました。同大学とは2008年に未来情報通信医療社会基盤センターとオウル大学無線通信センターの部局間協定締結を皮切

りに、2009年には大学間協定を締結し、工学研究院を中心とした共同研究や全学的な学生交流が行われてきました。

今後、オウル大学国際ブランチが、本学とオウル大学だけでなく、ヨーロッパとの協力関係の拠点となることが期待されます。

## Robo+ism、2015年度NHK学生ロボコンでベスト4に入賞!

**横** 浜国立大学課外活動届出団体であるRobo+ismが、2015年度NHK学生ロボコンにて、ベスト4に入賞しました。NHK学生ロボコンとは、日本全国の大学が参加するロボットコンテストです。

2015年度の競技課題は「ROBOMINTON:BADMINTON ROBO-GAME」で、バドミントンのダブルスがモチーフです。2台のロボットが、互いに協力し、どのようにシャトルを打ち合うか、という観点が競技課題の

魅力で、白熱した試合が行われました。なお、このRobo+ismのロボットは、オープンキャンパスにおいてYNUミュージアムで展示されました。

今回の企画では、展示だけでなくRobo+ismメンバーによる説明とロボットを動かすデモンストレーションが行われました。期間中は、来場者がコントローラーを持ち操作を体験する姿も見られ、楽しげな歓声が上がりました。横浜国立大学は、今後もRobo+ismの活動を応援していきます。



YNUミュージアムにてデモンストレーションを行うRobo+ism

## 第12回神奈川産学チャレンジプログラムで本学の4チームが入賞!

**第** 12回神奈川産学チャレンジプログラムの表彰式が、2015年12月15日に、パシフィコ横浜会議センターで開催されました。このプログラムは、一般社団法人神奈川経済同友会によって毎年開催されています。

企業・団体が、日常の経営課題に関する実践的な研究テーマを提示し、これに対して学生がテーマを選び、研究レポートとして提

出したものに対し、優秀な作品を表彰するというものです。

今年度の第12回では、神奈川県内の20大学から236チーム・789名の学生がレポートを提出し、57チームが入賞いたしました。

本学からは11チーム・38人の学生が参加し、審査の結果、1チームが最優秀賞、3チームが優秀賞を受賞しました。彼らの次の活躍に期待しましょう!



## 【国際REPORT】バンコクでYNUタイ同窓会を開催

YNU海外同窓会は、現在21ヶ国25地域で活動しています。アジア、北米、ヨーロッパなど様々な地域に、グローバルなYNUネットワークが作られています。

**2** 016年3月6日に、横浜国立大学はタイのバンコクで、YNUタイ同窓会を開催しました。バンコクで大規模な同窓会を開催するのは今回が2回目で、

多くの卒業生が集結しました。「YNU海外同窓会」の大きな特徴は、その国出身の留学同窓生だけでなく、その国で活躍する日本人同窓生も一緒になって参加することにあります。さらにその国の関係機関や協定大学からもゲストをお招きすることで、それまであまり接点のなかった同窓生同士、関



北米同窓会  
2016.2.27 開催



モスクワ同窓会  
2016.3.11 開催



連機関とのネットワークが広がり、それぞれがより活躍の場を広げることを目的としています。今回の同窓会では、同窓生代表として、YNUタイ同窓会長であるThanong Bidaya氏(元財務・商務大臣、元タイ国際航空会長、現タイ水道公社社長)から、YNUでの懐かしい思い出とその後のご活躍についてご挨拶がありました。

現在飛躍的な発展を遂げつつあるタイ王国において、YNUの卒業生は、政府や民間企業で要職について活躍しており、各同窓生の自己紹介では現在の活躍ぶりが披露されました。

「平成27年度科学技術分野の文部科学大臣表彰 若手科学者賞」を受賞し、日経新聞等にも研究活動が報道され、メディアにも多く取り上げられている福田淳二准教授と、特別支援教育の研究に従事され、障害を持つ学生の指導を行っている泉真由子教授の研究をご紹介します。

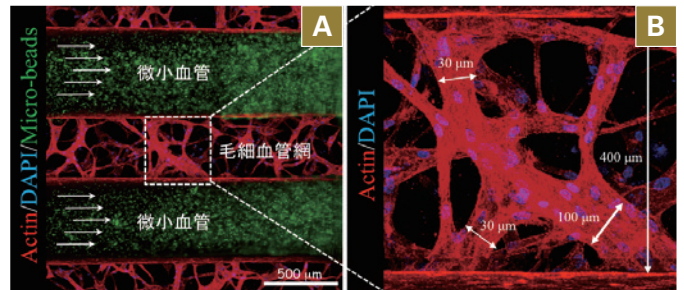
## 移植用の組織や臓器を作る

大学院工学研究院准教授 福田淳二

**再**生医療は近未来の新しい治療法として注目されています。この分野では、国内外で熾烈な研究開発競争がなされていますが、日本は今のところiPS細胞などを武器に健闘しています。再生医療には、iPS細胞などから色々な臓器細胞を作る方法がまずは必要ですが、それだけでは治療効果はほとんど得られません。なぜなら、臓器細胞を生体にそのまま注入してもほとんど生着しないからです。つまり、臓器細胞を使って移植用の組織や臓器を作製する技術が、今後の再生医療の実用化において鍵を握るのです。私達の研究室では、工学的なアプローチで、血管網を含む大きな組織を作製する技

術の開発に取り組んでいます。体の中のあらゆる臓器は血管網を備えていて、血液から酸素や栄養素を受け取ることで機能していますので、血管構造がなければ立体臓器が作れないのは明らかです。私達は、電気化学反応を利用して接着している細胞をダメージを与えることなく引き剥がす方法を確立しました。そして、この反応を利用して、細い針の表面から血管内皮細胞の層をコラーゲンゲルの内部に転写することで、内表面が血管内皮細胞の層に覆われた微小な血管様構造を作製しました(A)。転写された細胞の一部

規則的に配置された微小血管とそこから形成された毛細血管網



はゲルの中にさらに微小な血管網を自発的に形成します(B)ので、血管のネットワークが形成される訳です。現在、この血管構造の導入技術を用いて、立体的な肝臓や膵臓などの組織を作る研究に取り組んでいます。



FUKUDA Junji

大学院工学研究院准教授  
専門分野: プロセス・化学工学 / 生物機能・バイオプロセス / 人間医工学 / 生体医工学・生体材料学 / ナノ・マイクロ科学 / ナノマイクロシステム

## 障害のある者とない者が共に意義ある共生関係を築くために

教育人間科学部教授 泉真由子

**私**の専門は、特別支援教育です。特に慢性疾患等の病気の子どもの社会適応に関する研究をしています。「子どもの病気」とは、例えば小児がん、心臓疾患、腎臓疾患、糖尿病など身体的なものもありますが、いま学校教育現場で深刻な問題となりつつあるのが、精神疾患や適応障害、うつなど心の問題です。発達障害と併存することも少なくなく、保護者も学校現場も、そして児童生徒本人

も大きな困難を抱えることがあります。そこで市内の小中学校に在籍し上記のような悩みを持つ児童生徒や保護者に教育相談という形で関わり、学校生活を含む地域社会生活をその子どもにとって少しでも過ごしやすくするための方策を考えています。これには学校、医療、福祉、行政の各分野との連携が必須であり、それぞれの専門性を尊重しながら協力し、チームとして子どもや家族の生活を地域で支えるシステムの在り

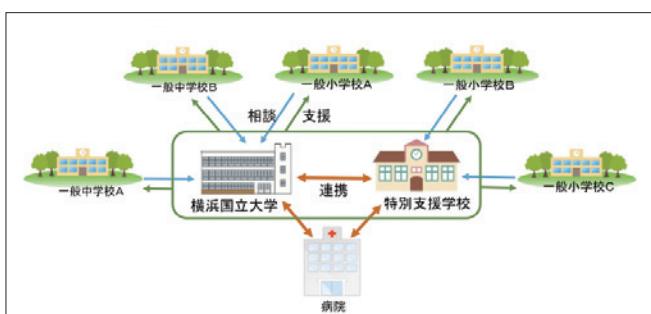
方を検討しています。ケースによって子どもの疾患や障害の状態、成育歴、家庭や地域の環境等、そして関わる支援者の質も異なりますが、一つひとつのケースについて

詳細に丁寧にデータを収集する中で、複数のケースに共通する一般性が何かないだろうかと探索を続けています。2016年4月から障害者差別解消法が施行され、病気や障害をもつ子どもが望めば普通学校に在籍し、地域の子どもたちと共に学び成長していくための制度が整いました。しかし現在の日本社会では障害のある者とない者が共に意義ある共生関係を築くにはあともう少しの成熟が個人にも社会にも必要です。今後は学校教育現場を中心としてこの共生関係の構築を可能とするような方策を検討していきたいと考えています。



IZUMI Mayuko

教育人間科学部教授  
専門分野: 特別支援教育、発達臨床心理学



# YNU 校友会活動のご紹介

横浜国立大学 校友会

→ [koyukai.ynu.ac.jp](http://koyukai.ynu.ac.jp)

All  
YNU

2014年10月に設立された横浜国立大学校友会(YNU校友会)は、卒業生、現役の学生、現旧の教員・職員を会員としています。各学部や大学院の専門性、OB・OGと現役という年齢差、留学生と日本人という国籍などの壁を越えて、横断的な絆を強めることで、総合力を発揮させ、社会への情報発信力を高め、横浜国立大学が更に輝く存在になることを目指します。

## 平成27年度活動報告(2015.4~2016.3)

### 校友会設立記念講演会「時代は変わる」シリーズ開催

第1回：杉田亮毅 (横浜国立大学校友会会長・元日本経済新聞社代表取締役社長)

第2回：西條都夫 (日本経済新聞社編集委員)

第3回：大西洋 (三越伊勢丹代表取締役社長)・中村正直 (日本経済新聞社編集委員)

第4回：小泉純一郎 (元内閣総理大臣)

第5回：鈴木敏文 (セブン&アイ・ホールディングス最高経営責任者)

第6回：矢野龍 (住友林業代表取締役会長)

第7回：永守重信 (日本電産会長兼社長 CEO)

第8回：川面克行 (アサヒホールディングス代表取締役副社長)  
中畑英信 (日立製作所執行役員常務 CHRO 兼 人財統括本部長)  
伊藤雄二郎 (三井住友銀行取締役 兼 副頭取執行役員)  
廣田康人 (三菱商事代表取締役 常務執行役員)



### イベント・コンテスト

5/24 清陵祭にて新入生歓迎テントを出展

7/3 留学・国際交流イベント「Go Global YNU」開催 (協力：内閣府、文部科学省)

11/20 「社会人の先輩と留学生・日本人学生との交流会」開催

10/31 ホームカミングデーを開催 (常盤祭と同日開催)

11/28 「第2回横浜国立大学アプリコンテスト 最終審査会・交流会」開催

### キャリア教育開講

#### 教養教育科目「まなび座Ⅰ」

全学部新入生対象、春期 教養教育科目

毎回若手の先輩がプレゼンターになり、グループで課題発見・討議・発表をし、自律的に将来を構想する土台づくりを狙いとします。



## 今後の開催予定 平成28年度活動計画(2016.4~2017.3)

### ▶ キャリア教育開講

#### 1 「まなび座Ⅰ」

全学部新入生対象、春期 教養教育科目：昨年同様

#### 2 「グローバルビジネスコミュニケーション講座」

全学部2年生以上、秋期  
異文化理解とコミュニケーション力養成

#### 3 「グローバルビジネス実践論」

全学部3年生以上対象、秋期  
海外駐在経験者を講師に、さまざまな業種・国々での企業実践体験に裏付けられた知見を学び、英語によるコミュニケーション力のみならず、グローバルに活躍できる人材に必要な要件を学びます。



### ▶ イベント予定

#### 1 ホームカミングデーを常盤祭と同日開催(10/29)

・著名歌手とグリークラブのジョイントコンサートなどのイベント開催

#### 2 著名な講師を招いた講演会開催：4回予定

・ライフプランセミナーも開講

#### 3 第3回横浜国立大学アプリコンテスト(YAC)開催

#### 4 社会人の先輩と留学生・日本人学生との交流会開催 (開催地：東京と横浜)

#### 4 留学・国際交流関連イベント

詳細は校友会ウェブサイト([koyukai.ynu.ac.jp](http://koyukai.ynu.ac.jp))にて順次ご案内いたします。  
今後の活動にご注目ください!



## 中央広場がリニューアル

中央広場は、普段の学生生活ではランチを食べたり放課後のリラックスした時間を思い思いに過ごしたりと、広く皆様にご利用頂いている場所です。この度、リニューアル工事を行いました。芝生の貼り替えや緑地の剪定、新たな通路設置を行い、明るく気持ちのよいコミュニケーションスペースとなりました。大学にお越しの際はぜひお立ち寄り下さい。

広場のリニューアルに併せて、経済学部講義棟2号館も改修工事を行い、1階大講義室は中央広場と一体感のある開放的な空間になりました。

皆様が気持ちよくキャンパスですごせるよう、今後も環境づくりを進めてまいります。



左/中央広場完成イメージ 右/経済講義棟2号館講義室内観イメージ

## PICK UP YNU グローカルレポート

創造し、挑戦する人材を育成し  
世界を惹きつける  
「グローバルエクセレンス」を創出

横浜から世界規模で物事を考え、地域で実行し、世界へ向けて発信するレポートであるグローバルレポート第14弾では、横浜国立大学に縁があり、俯瞰的かつ客観的に本学をご覧になってきた先生方の特集です。本学の卒業生で日本の科学技術政策の舵取りをしてこられた科学技術振興機構顧問の相澤益男氏、先端科学高等研究院 藤江幸一副研究院長、藤野陽三上席特別教授が、YNUをとりまく社会の状況から、YNUの強み・特徴をどのように活かしていくかを語り合いました。

☞ <http://www.ynu.ac.jp/special/glocalreport/vol14/>

Let's go  
YNU!第11回横浜国立大学  
ホームカミングデー（HCD）のご案内

ホームカミングデーは、卒業・修了生、そのご家族、在学生と保護者、教職員（退職者を含む）、地域の方などの本学関係者がキャンパスに集い、旧交を温めるとともに、新たに親睦を深めることを目的としています。

昨年度同様に、本学常盤祭と同日に開催し、メイン講演会、(\*)ジョイントコンサートなどのイベントや交流会を予定しています。

ホームカミングデーは、本学関係者のみならず一般の方々にも開かれていますので、お誘いあわせの上お越しください。お待ちしております。

(\*)グリークラブ合唱とオペラ歌手苗田博昭氏のオペラとカンツォーネ

第10回HCDメイン講演  
「グローバル時代に求め  
られる日本の人材像」



学生発案のビジネスプランコンテスト

## 第11回横浜国立大学ホームカミングデー詳細

詳しくはこちら ホームカミングデーウェブサイト ☞ [homecoming.ynu.ac.jp](http://homecoming.ynu.ac.jp)

開催日

2016年  
10月29日  
(土)

## 卒業生・修了生の皆様へ データ登録のお願い

本学では卒業生との連携を深めることを目的として、卒業生・修了生の方々に連絡先、就職（進学）先等のウェブによるデータ登録をお願いしています。登録データの使用方法は以下の通りとなります。

- ・ 大学最新情報案内のメールマガジンの配信（月1回程度）※希望者のみ
- ・ 本学ウェブサイトや広報誌等の卒業生インタビューのお願い
- ・ 登録情報を同窓会へ提供 ※許諾者のみ
- ・ YNU ネットアドレス（生涯メール）の登録／確認

左記のこと以外の利用および提供は一切いたしません。  
また、関係法令及び本学規則等により個人情報として適正に管理し、使用いたします。

本趣旨と使用方法をご理解の上、ご賛同いただける場合は、ご登録をお願いします。

登録  
方法

パソコンより下記ページにアクセスしてください。

詳しくはこちら 横浜国大ウェブサイト → 「卒業生の方」 → 「卒業生・修了生データ登録」

## YNUネットアドレスサービスのご案内

詳しくはこちら ☞ [www.ynu.ac.jp/about/project/netaddress/](http://www.ynu.ac.jp/about/project/netaddress/)

YNU ネットアドレスサービス（生涯メールサービス）は、本学が、卒業生・修了生並びに学生及び教職員を対象として、在学・在職時から生涯に亘って利用できるメールアドレスです。

本サービスは、Microsoft社が教育機関向けに無料で提供しているメールサービス「Office365 for Education」を利用し、本学が公的に保有するドメインである「@ynu.jp」を付したメールの送受信を行うものです。メールサーバ本体の運用管理はMicrosoft社が行いますが、利用者管理は本学側が行うことになります。送受信は、主にウェブメールで行います。

YNU ネットアドレスサービスのご利用は、左記の「卒業生・修了生データ登録システム」よりお申し込みください。